

公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会
第1回議事録

日 時：平成22年8月11日（水）
10時30分～12時

場 所：市役所 3階 第三委員会室

次第

【司会：寺嶋政策調整課長】

1. あいさつ
2. 懇談会について
・公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会
設置要綱について
3. 公共事業におけるユニバーサルデザインサインマニュアルについて
4. その他

配布資料

1. 公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会
次第
2. 公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会
出席者名簿
3. 公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会
設置要綱
4. 大垣市ユニバーサルデザイン推進指針
5. 公共事業におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究（ユニバーサル
デザイン・コンソーシアム 曾川氏提供）
6. 施設におけるわかりやすいユニバーサルデザインのサイン（佐賀県）
7. わかりやすい案内・誘導サイン等の手引き～ユニバーサルデザインの視点から～（大
分県）

紹介資料（会場スクリーン）

1. 「公共事業におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究（公共施設及
び民間施設の先進事例）」（ユニバーサルデザイン・コンソーシアム 曾川氏提供）

出席者

【有識者】

鈴木 誠 岐阜経済大学経済学部教授・地域連携推進センター長
松本 英三 大垣女子短期大学デザイン美術科学科長・教授
加藤 周三 株式会社加藤周三デザインプロダクト代表者(社)日本グラフィックデザイナー協会会員
曾川 大 ユニバーサルデザイン・コンソーシアム事務局長・株式会社ユーティ・シー取締役

【大垣市】

大江 英 企画部長
寺嶋 太志 企画部政策調整課長
小塩 敏成 企画部政策調整課政策調整係長兼広報政策係長
堀本 直紀 企画部政策調整課主査
井納 由起 企画部政策調整課主事
森 憲 司 総務部契約課長補佐兼管財係長
奥村 公彦 都市計画部建築課長補佐兼建築係長
後藤 威博 教育委員会事務局文化振興課文化振興係長
北村 彰夫 教育委員会事務局図書館長補佐兼図書第二係長

発言録

1. あいさつ

【寺嶋政策調整課長】

本日は、大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
ただいまから、「公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会」を始めさせていただきます。私、司会を務めさせていただきます政策調整課長の寺嶋と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに大江企画部長からご挨拶を申し上げます。

【大江企画部長】

本日は、残暑厳しい折、またご多忙の中、「公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会」にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

ご案内のとおり、本市におきましては、平成20年9月に、「住んでよし、訪ねてよし、すべての人に優しい、思いやりいっぱいのみち・大垣」づくりを基本理念とする「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針」を策定し、市民・事業者・行政の協働によるユニバーサルデザインのまちづくりを進めているところでございます。本日出席いただきありがとうございます岐阜経済大学の鈴木先生、大垣女子短期大学の松本先生には、指針策定の際に

は、研究会の座長、副座長として、ご尽力いただき、誠にありがとうございました。

さて、様々な人が利用する公共施設では、より多くの人に情報を正しく伝えるサイン等の果たす役割は大きく、欲しい情報を誰にもわかりやすく提供することは大変重要なことであると思います。

こうしたことから、このたび、指針に基づき、だれもが利用しやすい公共施設づくりを目指し、本懇談会を設置し、岐阜経済大学との連携により、サインマニュアルの策定に向けて調査研究を進めてまいりたいと考えております。

つきましては、各分野でご活躍の皆様方から貴重なご意見をいただきながらマニュアルづくりを進めてまいりたいと存じますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、一言ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

◆有識者懇談会出席者の紹介【寺嶋政策調整課長】

出席者名簿の順に紹介。(配布資料「公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会 出席者名簿」参照)

2. 懇談会について

【寺嶋政策調整課長】

それでは、次第の2の「懇談会について」ですが、事務局からご説明を申し上げます。

【小塩政策調整係長】

配布資料「公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会設置要綱」を説明。

【寺嶋政策調整課長】

有識者懇談会の目的等について、説明をさせていただきました。

鈴木先生には座長として、松本先生をはじめ4名の方には委員としてご参加をよろしくお願い申し上げます。

それぞれの役割分担ですが、鈴木先生と松本先生には「大垣市ユニバーサルデザイン推進指針」策定の段階で、いろいろお力添えをいただいたということで、引き続きよろしくお願い申し上げます。加藤様には、本懇談会でマニュアルについてご審議いただくのですが、最終的なマニュアル策定の段階で、デザインをお願いしたいと思います。曾川様には、全国で取り組んでいるユニバーサルデザインの情報をご提供いただくとともに、会議資料をご提供いただくということで、よろしくお願い申し上げます。

なお、委嘱状は、本来であれば市長からお渡しするところですが、お手元にお配りしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、次第の3の「公共施設におけるユニバーサルデザインサインマニュアルについて」ですが、ここからの進行は、座長の鈴木先生にお願いいたします。

3. 公共施設におけるユニバーサルデザインサインマニュアルについて

【鈴木座長】

懇談会の座長を務めさせていただきます、岐阜経済大学の鈴木です。皆様から忌憚のないご意見をいただき、これ以降の市民の皆様を交えた協議に役立つような案をつくり上げたいと思いますので、よろしく申し上げます。なお、本日の懇談会は、大垣市の情報公開条例に基づきまして、非公開とする事案がないことから会議は公開とします。また、この会議の会議録は、大垣市のホームページと市役所1階の情報コーナーでも公開されます。

それでは、ただいまから意見交換を行っていきませんが、その前に松本先生とは一緒に大垣市ユニバーサルデザインサイン推進指針の策定に関わりましたが、松本先生は街の施設、器具のデザインに造詣が深く、私は市民参加の地域計画、地域政策の専門家として日ごろ仕事をしています。前回のユニバーサルデザインを生かしたまちづくり研究会では、市民の皆様は深く関心を持っており、そして今年は、「元気ハツラツ市」をはじめ賑わいのあるまちづくりが活発に行われています。そのような中で、ユニバーサルデザインが進められていくことは大変意義のあることで、今回、具体化されていくことを大変うれしく思っています。

特に、指針の第5章5-2「さまざまな生活空間でのユニバーサルデザイン化を推進」にあるように、曾川さんや加藤さんをはじめ、専門家の方が目に見える形でのサインデザインのモデルをこれから描いていただくわけですが、コミュニケーションを通して市民同士あるいは観光客の方たちに、具体的に伝えていく中で生かしていけることを期待しておりますので、積極的な意見交換をお願いします。

まず、曾川さんから話題提供をしていただき、それを踏まえて意見交換をしていきたいと思えます。

【曾川委員】

曾川です。ユニバーサルデザイン・コンソーシアムという任意団体の事務局長と、会社では機関紙で「ユニバーサルデザイン」という、おそらく日本で唯一の専門誌を約10年発行しています。その中でまちづくりがメインのコラムであり、そこにはサイン計画が入ってきます。その他、いろいろなプロジェクトとして、行政とかまちづくりとかの中に係らせていただくこともあります。最近では小田急の新宿で進めている駅前の既存のものをいかに使いやすくするかということ、さらに安曇野市では市庁舎を一つにまとめる市民ワークショップを担当していますが、ユニバーサルデザインの視点でやっており、サイン計画という分科会が出来ています。

今回は、市役所から事例を見せてほしいということで、基本計画を飛び越えてデザインを紹介することになりますが、実例を見ていただくことで、考え方や基準などを読み解くこともできると思いますので、そこから始めたいと思います。皆さんのヒントになればと思います。

配布資料「公共事業におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究」を説明

●確認事項（表紙裏面）

確認事項は、いま紹介されたとおりですが、スケジュールはかなり短いです。普通は1年間ほどかけるのですが、短いのでそれなりの体制で考えていく必要があります。それでは、今日の役目は最新事例の紹介ですので、これから説明します。

●最新事例の紹介（2枚目裏面）

1. 大田区役所

大きな庁舎で最近リニューアルしたものです。

2. 江東区南砂町

5年ほど前に設置されたサインがいまだに機能しています。メンテナンスが行き届いているのは評価できます。

3. 越谷レイクタウン

商業施設で日本一のショッピングモールです。ユニバーサルデザインに取り組んでいます。

4. 丸の内ブリックスクエア

ユニバーサルデザインにまったく関係ないが、金をかければ良いものができる事例です。

5. 千代田区井上眼科病院と足利市柏瀬眼科医院

これは視覚障がい者に対応した医療施設で、最初からユニバーサルデザインを取り入れています。

その他にもいろいろありますが、後ほど説明します。

「公共事業におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究（公共施設及び民間施設の先進事例）」をスクリーンに表示し、詳細について説明

●最新事例の詳細説明

1. 大田区役所

入ってすぐのところですが、残念なのはフローアに敷物が敷いてあります。良いのは

迷っているとすぐに声をかけてくれます。サインだけでなく、人が適切に対応しています。これは拡大図です。各フロアの案内をオーソドックスな形で表示しています。英語と中国語、ハングル語が表記されています。これも1階の誘導サイン、上の方に空港並みの大きなサインで表示しています。各窓口のまわりに職員が4、5名います。窓口には電光掲示板で待っている人の順番が分かるようになっています。突き出しサインがありますが、危なくない高さであれば良く目立つので有効です。サインはいやというほど付いていますが、これだけ付けないと苦情が出ます。以前はほとんど無かったということです。案内番号はフロアにも入っています。逆光になる場所ではLEDで目立つように工夫していますが、視認性はあまり改善されていません。サインは光との位置関係を考慮しないといけないと思います。

2. 江東区南砂町

2004年東京都が「ユニバーサルデザイン福祉のまちづくり推進モデル事業」として実施したもので、専門家と区民などいろいろな方々を募り、ワークショップを行ったということで、既に5年ぐらい経っています。広域サイン、周辺サインがあり、この他にも分岐サイン等でエリアを総合的に分かりやすくしようというものです。ここに照明があるのと、視覚障がい者のために音が鳴るようになっています。彼らは音とか匂いなどでメンタルマップを作っているの、そのマップ作成のために音のサインが欲しいということです。音には電子音と風車の音があります。これは分岐サインで裏側には番地が入っています。交通の要所に立っているもので、照明があり、太陽光エネルギーを利用している。別の形の分岐サインですが、電柱の陰で見にくい個所もあります。点字が貼ってあります。自転車が留めてあるのは問題であり、サインだけでなく、まちづくりとして全体的に取り組んでいかなくてはいけないと思います。

3. 越谷レイクタウン

延べ床面積355,000㎡の広大な施設です。風と森という二つのモールが一体となっている全国でも最大規模の施設です。インフォメーションのサインも大きなものです。商業施設としてユニバーサルデザインの取り組みをアピールするためか、いたる所に掲示しています。エコにも熱心で壁面緑化をやっています。風というモールですが、天井と床を使って動線が分かりやすいです。照明を使って字句をはっきり見せています。ジグザクのラインで店舗に誘導しています。分岐点ではモールへの案内サインがあります。床サインを使ってエレベーターとATMに誘導しています。次のホールへの接続部分では足のマークを入れています。森に行くんだというサインを全体を使って表現しています。これは風というもう一つのモールと駅までの500mのサインで、大きな施設では必要であり、親切な配慮です。3階部分までの吹き抜けになっており、タペストリーはペットボトルで作ったとPRしています。インフォメーションは各所にあり、何を尋ねたら良いかも親切に書いてあります。ご意見ボードがあり、お客の意見に真面目に答えています。エレベーターホール、ここの字は2mmで小さく見にくいです。これはトイレ、通常のトイレでもわかりやすいサインです。このようにフロア、壁面、天井に、ピクトグラムなどあらゆるものを使っています。ユニバーサルデザイントイレ

が売りで、摂南大学 田中直人教授が当初から計画に参画しています。ワークショップなどを取り入れ、モックアップも使用しています。家族連れが多いことから、幼児、哺乳瓶などのマーク、ミルクルーム、キッズトイレがあり、必ずベンチが付いています。これらは店舗スペースとして、価値の高い各フロア中央に配置されており、ユニバーサルデザインに熱心に取り組んでいることがうかがえます。見守りトイレでは、保護者が見守ることができるようになっています。男子用トイレでも子ども用の仮ベッドが設置されることが多くなっています。天井には非常時火災発生時にランプが点灯します。駐車場は良くできており、LEDで動線を示すとともに、駐車しているところはオレンジで、空いているところが緑のランプで表示され、遠くから良く分かります。障がい者用の駐車場は、施設独自の許可証を発行して、不正に使用しないよう対策がとられています。遠く離れた駐車場から分かるように、大きく表示されたエスカレーターホールです。休憩所には人と環境に優しいユニバーサルデザインとエコの宣伝がしてあります。

4. 丸の内ブリックスクエア

三菱地所設計の開発です。これは美術館として新しくオープンした所です。サインはユニバーサルデザインを感じさせないファッショナブルなサインです。階段はあるが、照明で分かりやすくしています。快適性という意味ではユニバーサルであるし、アクセスしやすく、フラットであるところは評価できます。エコも兼ねた植栽があり、無料で利用できる快適な空間になっています。

5. 千代田区井上眼科病院

タイルカーペットで主動線を配置し、歩行感、杖などの感触の違いで誘導しています。バリアフリー的でなく、健常者が見ても違和感はありません。照明も主動線に沿って配置しています。ダークブルーに白文字は眩しさを感じる事が少ないです。

6. 足利市柏瀬眼科医院

色彩と素材感で歩行ルートと検査エリアを分離しています。色彩と照明で空間のコントラストを付けています。カラーシミュレーションで発見と読みやすさを追求したデザインです。

7. 軽井沢保健福祉複合施設「木もれ陽の里」

2、3年前にできた施設です。優れているのは光を使って誘導し、突き当たりの明るさと天井の照明で主動線をはっきりと際立たせています。無意識に歩いて行けます。

8. 松山市松山タウンボード

市街地の12か所に設置されています。欲張りなサインで、プラズマディスプレイ、電光文字サイン、タッチパネル、携帯メール配信、ポスター、チラシ・パンフレットがあります。どれだけ使われているか検証されていないので不明ですが、観光客にはありがたいです。非常時には、電光掲示板として市民にも情報提供します。「坊っちゃん電車」をモチーフにしたデザインです。これがタッチパネルとICカードリーダーです。おサイフケータイ対応電話リーダーですが、どれほど使われるのかデータは持っていません。

9. 中部国際空港「セントレア」

誘導ブロックを必要最小限に制限しています。邪魔になるので、アクセスプラザとい

うメインの案内所に誘導するのみです。視覚障がい者には人がサポートすることで補っています。これらは新千歳、羽田空港でも同じ考えで進んでいます。完成まで述べ1,500人の障がい者を動員、相反する意見をまとめました。

10. 九州大学病院小児センター

「わかる」サインから「理解して患者を受け入れる」サインに。JIS規格のピクトグラムを使用しないで子どもの病院に対する印象を和らげています。

11. 八戸赤十字病院

天井の交差部を目印に変更しています。

12. NTTドコモハートフルプラザ

誘導ブロックの解決法の一つで高さが約1mmです。杖で分かるには1mmで十分です。黄色は目立つがデザインとして美しくないなので黒と白でコントラストを付けています。

配布資料「公共事業におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究」本日の検討課題〈最終ページ〉に戻り説明

●本日の検討課題

私としては、本日の検討課題をあげさせていただきました。「サイン整備の基本的な考え方について」、「サインの基準について」、それから、「チェックリストについて」及び「次回までの課題とスケジュール調整」についてであります。かなり欲張りですが、皆さんに、大まかに検討していただければという希望を持っています。ユニバーサルデザインは専門の方もおられ、良くお分かりと思いますが、バリアフリーとの違いですが、出来あがった物を見るとほとんど違わないことが多いです。ユニバーサルデザインは参加型であるということ、それから終わりが無いということですね。作ってからがスタートであり、日ごろから山頂のない登山のように感じて取り組んでいます。以上で説明を終わります。

【鈴木座長】

ありがとうございました。最後の検討課題まで出していただきましたので助かります。ただいま、全国の民間・公共のそれぞれの取り組みを紹介していただき、ユニバーサルデザインの考え方とか、設置後のユニバーサルデザインのチェックの方法など、これから考えて行く材料を提供していただきました。

【曾川委員】

追加資料として、ここに書籍や他の所の基本のマニュアル、視覚障がい者の体験など自宅にあるものを持参しました。(多数の書籍類を紹介)

【鈴木座長】

私は、産業経済が専門ですので、こういうことが地域振興とか、地域のマーケット開発に、どう貢献していくのかが大変関心のあるところです。前日も松本先生からユニバーサルデザインの缺の開発など紹介していただき参考になりました。

それでは、今紹介していただいたところについて意見交換し、次いで、市の方からサイン整備について特定の場所について導入するお考えもあるようですので、サイン整備の基本的な考え方について紹介していただいて、それをめぐり、さらにサインの基準について、どのような観点が必要なのか、意見交換をしていきたいと思います。最初に加藤先生の方からコメントをお願いします。

【加藤委員】

素晴らしい事例を見せていただいて、光と構造の関係、また、ユニバーサルデザインをそんなに意識しなくて無意識のうちに入っているのが随所にみられました。ユニバーサルデザイン自体、表示してあるだけでなく伝わりやすいもの、どう伝わったかということ重視したデザインが多かったと思います。具体的に伝えるという意思表示がはっきりと示されています。ショッピングモールなどには徹底して活用されています。それ自体が、サインだけでなくウォールデザインと同化した形であり意識しなくても自然に入ってきます。それが駐車場やユニバーサルデザイントイレなどに表れています。最初の行政の定番的なものとは、また違う感じを受けました。

【鈴木座長】

越谷のレイクタウンの場合はイオンですか、最初の段階から意識して導入する方法を取り入れていますね。

【曾川委員】

そうです。1年がかりでやっていますね。

【鈴木座長】

今日の所を見て、例えば大垣のイオンを見ると、随分共通するところもあるなと思いました。最初から作れるところは、このように大胆にできますが、大田区の区役所ですか、この場合は後付けになりますので、例えば、光の部分などについて、どのような議論の過程を経たのでしょうか。

【曾川委員】

私は、これには入っていなかったもので、一度、聞いてみます。

【鈴木座長】

加藤先生、今の区役所ですが、ご覧になってどうお感じですか。

【加藤委員】

行政の中で、しかも後付けにしては大変きちんと整備されていると感じました。天井からのサイン等分かりやすく感じました。

【松本委員】

今の事例は限られた空間、独立した部分で出来ていますので、コンセプトがしっかりしていれば、ある程度のものが出来るという表れだと思いますが、都市計画のレベルで考えますと問題は山積みです。先程のイオンなど商業施設とか公共施設など、独立したものであれば可能ですので、力のある企業や公共施設がリードしていくようなになれば良いと思います。

ユニバーサルデザインが普通の用語になっている段階で、どれだけのスピードで一般のレベルまで広まるか興味があります。病院のトイレの女の子のマークは、病院の中にあって心が和らぐ良い印象を受けました。パターン化したマークは良く分かりますが、広まっていくには感覚的な部分でどうなのか。どこかで何かが欠けて行く、コミュニケーションがなくなる、人と人の要素を減らしていくことにもなります。そのような意味で九州の病院の女の子のマークは考えさせられます。

【鈴木座長】

病院では、子どもたちは嫌がるので、待ち時間、診療時間を含めて心を和らげるのにあのようなサインは役立っています。例えば公共施設の場合、大垣ではスイトピアは子どもたちが大勢出入りします。それから市役所では高齢者の人が出入りしますが、こういうところはサインデザインが必要でしょうね。

【松本委員】

クールなデザインではなくホットなデザインが適しているのでは。

【加藤委員】

これから先、丸の内のような形が良いのでは。エコと一体化して、周りのグリーンに溶け込んで、やすらぎがあります。パーソナルな場所では、ホットなデザインで動物などオリジナルなデザインを活用しても良いですね。公共の施設ですと皆が認知する必要があります。その背景ですね、色は目立てば良いということではなく、しかし、視覚障がいの人やいろいろな方がいますから一概に言えませんが、自然と溶け合った形、アメリカのショッピングモールなども環境と一体となって、同化したアースカラーになっている。でも、表示は大きく良く見える。デザインすると、どうしても赤や黄色の明るく、目立つ色を使おうとするが、ブラウンでもはっきり見えるので、そのような意識が大事かと思います。

【鈴木座長】

大江部長さん、ご覧になって如何でしょうか。

【大江企画部長】

私の認識が甘かったのかと思いますが、こういうものは誰が見ても分かれば良いと考えていましたが、そうするとソフト面が薄らいでくる。そういうことに気付かされました。所謂、バリアフリーの考えだったのかと思います。今見せていただくと、情景に溶け込んだ形で誘導する自然な形が、これからの時代のサインの方向なのかなと感じます。

【鈴木座長】

従来はそうですね。分かれば良いということがありました。加藤先生はこれまで違和感を覚えていましたか。

【加藤委員】

そうですね。自分自身でも、そのようなこともあったかもしれません。

【鈴木座長】

丸の内は行ったことがあります。シックな落ち着いた雰囲気。昼休みにはサラリーマンが寛いでいますね。あのような処に、赤や黄色は確かに落ち着かないですね。このようなシックで落ち着いた雰囲気や爽やかという切り口で、公共施設では、例えば、長野県の施設であれば、北アルプスや安曇野の自然や文化・風土など皆さんが持つイメージがありますが、公共施設でそのような例はあるのでしょうか。

【曾川委員】

白馬では、スキー客が半減するなどしたため、ユニバーサルデザインのサービスで盛り返そうということになり、サイン計画が出てきました。それまでサインはバラバラで、旅館やペンションあるいは地区で勝手に出していたので、それを整備して、白馬らしさを統一した形でサイン計画を進めています。安曇野もそのような形で進めています。地域の個性を出しながら、しかも分かりやすいものという方向です。

【鈴木座長】

いまおっしゃった商業のサイン（看板）と誘導のサインなどが、ケンカしているのは良くないですね。高さ、大きさ、形とかが整理されて、融合することが必要ですね。そのような事例で上手くいっているケースはないのでしょうか。

【曾川委員】

公共ですか。はっきり言って取り組みが始まったばかりですね。むしろこちらで良い

事例を作って、大垣市が全国に先駆けていただくことを期待します。商業施設は進んでいます、公共施設はそこまでいっているのではないと思います。

【鈴木座長】

中部国際空港では、トイレ等の数も多く配置されていますが、その上で、それを補う形でコミュニケーションを大事にしている。先程の大田区役所の話でも、誰かが声をかけてくれるということがありました。サインを自分で納得して、それで終わってしまうということであれば、コミュニケーションを途絶えさせてしまう。コミュニケーションで補っていくというソフトの空間づくりが大切ですね。

【曾川委員】

すごく大切ですね。だからユニバーサルデザインであり、ソフト、ハードがしっかりしていないといけない。むしろソフトが重要です。サインも誘導するとき、どこまで人的サービスが付加できるのかを踏まえないと、体系や器材がしっかりしたものにならない。今回の施設も現場を拝見してきましたが、それほど大きくないですね。その中で、どれほどの人的サポートもできるのかを踏まえていただければ、より良いサイン計画ができるのではないのでしょうか。

【鈴木座長】

ちなみに、大垣市役所でも、玄関を入ると、“いらっしゃいませ”と声をかけられる。とても良いことだと思います。また、“どちらに行かれますか”などのフォローはサインを補う良い例だと思います。

【曾川委員】

誰にも声をかけるということだけでなく、困っている人に声をかける。その見極めが必要ですね。最近ではコンシェルジュが流行ってきています。ハード・ソフトともにコンシェルジュ的なものがあれば、ワンストップで分かるというのが理想だと思います。

【鈴木座長】

中部国際空港は、国際線の出口で約150人ぐらい登録されている。3カ国以上話せる人が交代で対応していて評価が高いですね。

【曾川委員】

空港では何も考えなくても安心ですね。誰かに聞けば親切にしてくれるから安心です。しかし、公共施設はどうなのかというのがあります。例として、JRなどははっきりしていて、安全第一であり、酔っぱらいのケアなどもしてられません。バリアフリーの考えです。かつては、誘導ロボットにより誘導してはどうかと2千万円かけて作ったのを見に行きましたが、こんなのは酔っぱらいに壊されたら終わりだと採用されま

せんでした。JRの場合は、安全第一の大量輸送の確保が主で、そのような考え方もあります。それでは、この場合はどうするのか、今回のサイン計画のなかで、基本的な考え方があるのではと思います。

【鈴木座長】

今回のサイン整備の基本的な考え方ですが、街に来て、どこに行こうかということを探るのではなくて、施設の場合は目的性を持って来るわけですね。その目的を満たしてあげるために、明確なサインとかコミュニケーションが大事であると思うわけですが、サイン計画の基本的考え方について、寺嶋課長はいかがでしょうか。

【寺嶋政策調整課長】

あくまでも公共施設の中での誘導を考えていまして、駅を降りた人を誘導することももちろん必要かと思いますが、今回は想定しておりません。お手元に佐賀県、大分県の例を紹介していますが、こういう施設内の共通のものを作れば良いなと思っています。それぞれ施設では目的が違いますが、一定のルール作りができればと考えています。

それで、岐阜経済大学さんと連携して、曾川さんから先進事例でご紹介いただいたものなど確認しながら、サイン計画とマニュアル策定をしていきたい。そしてチェックシートも作る。今年は、具体的には、いろいろな方が利用されるサイトピアセンターと市の本庁舎の2施設について、現状把握と改善を整理したい。それで、行く行くは市民病院や情報工房などを整理していく。個々の施設を整理しながら、最終的には全市的に発展させ、整理したいと考えています。

項目3のスケジュールですが、有識者懇談会を3回程お願いして、マニュアルだとかチェックリストを作成し、市民の方を募ってワークショップを開催して、サイトピアセンターや本庁舎のサイン計画のあり方について考え、改善点を取りまとめていきたいと考えています。サイン整備の目標ですが、曾川さんにまとめていただいた環境改善、観光推進、市街地活性化、地域特性等ですが、行きつくところ、利便性の向上になるのかなと考えていまして、中心市街地の回遊性を高めるとかは、今回の施設では考えておりません。なお、今年の秋頃から整備を始めます「奥の細道むすびの地記念館」は、24年の春にオープンする予定ですが、設計段階からユニバーサルデザインは意識しており、今後もそのサインの整備の段階でいろいろと決めて行かなければいけないと考えています。施設の中には芭蕉館、先賢館と観光・交流館がありまして、観光・交流館では、中心市街地との回遊性を高めたり、市内全域の回遊性を高めるような映像を流すのですが、そういった意味では、観光推進、市街地活性化にも該当するように思いますが、今回は施設ごとの利便性を向上するのが第一の目的と考えています。

【鈴木座長】

利便性の向上ですね。今年度は、市役所とサイトピアセンターをモデルとしてやるということですね。

【寺嶋課長】

そうです。先程お話しの方の市役所の受付案内は民間委託しましたが、先生がおっしゃった“こんにちは、いらっしゃいませ”のほか、職員提案として、例えば、政策調整課に行くにはどうしたらよいのか、床に矢印を引くという意見がありました。しかし、全課に行くようにするには煩雑となり、困難ということで保留になっています。岐阜市民病院に行くと、何々科と誘導ラインが付いていますが、あのようなサインをイメージしたのですが、市役所では難しいと感じています。受付案内で“政策調整課は2階ですよ”言われてもたどり着けない。3階、4階になるとさらに難しいので、このあたりをどうするのか、今回、スイトピアセンターは、生涯学習支援施設であり、文化会館と図書館及び学習館があり、それに市役所をモデルにしてやってみたいと考えています。

【曾川委員】

市役所とスイトピアセンターでは環境がまったく違いますね。市役所は悪くはないけど古くて典型的な役所ですね。スイトピアセンターはまだ行ってないですが、新しいですね。

【寺嶋課長】

一番新しい学習館は、平成4年建築です。

【曾川委員】

この2つをモデルとしてやるのですか。そうしますと、サインの基本計画はどれでも応用できるものにするのですか。チェックリストも両方で使えるようにするのですね。

【鈴木座長】

今回、懇談会が3回という限られた中で、またワークショップも1年をかけてというわけにいかないの、それだけにこの段階で問題提起をしていただき、今基本的な考え方が示されましたので、サインの基準について、あるいはチェックリストのあり方について、曾川さん、加藤さんには実際にモデル地区を見ていただいて、市民の皆様にも議論をしてもらう。たたき台を準備していただき、それを使って市民の皆さんと意見交換をする。こういう段取りで良いですね。

【曾川委員】

私の方で準備したものが、また参考となる書籍などがあります。時間の関係で、はじめからスタートするのではなく、良いものを参考にして時間を効率的に使うという考え方もあると思いますがいかがですか。

【鈴木座長】

今回、大垣市全部の公共施設ではないですが、どちらも利用頻度の高い施設で、多様な人たちが利用する施設で、このあたりについて現状分析なり、サインの問題点など、先行的な市役所や施設をまずチェックしていただくのは大事だと思います。こういう問題があるというあたりまで懇談会で固めて行きたいと思います。それを利用する市民がどう見るかは興味のあるところです。それを踏まえて最終的に提案をしたい。さっき、おっしゃったように、ユニバーサルデザインは利用者あるいは感性により変わっていくものであるし、そのことに期待をしていますが、まずは現状を把握してどこをどう改善すべきなのか、この二つについて、専門的なお二人からお考えを出していただきたいと思います。

【寺嶋政策調整課長】

先程おっしゃったように、市役所とスイトピアセンターでは、機能が違うというのがあると思います。

【曾川委員】

多分、守らなければならないマスト（共通）の部分と、準拠した方が良いとの2段階ぐらいに分けて行くことになるのかなと思います。マストの部分は全ての施設で守りなさい、あとは施設の個性に応じて緩やかにしていくのかなと思います。

【寺嶋政策調整課長】

そういうマニュアルを作りたいですね。もう一点はサインですね。大垣市独自で行ったほうが良いのか、ピクトグラムのようなものを使うのか。悩むところですが。

【鈴木座長】

ここの懇談会では、アウトプットをどう出すかを詰めて行かなくてはいけないですね。

【松本委員】

マスト部分と施設によって機能が違えば、基本部分と応用部分がでるのでは。

【鈴木座長】

この指針を作るとき、ユニバーサルデザインとは、あるいはそのデザインを生かすには、どういう場面でという概要の概要的なものが出来てきた。これをたたき台にして具体化の段階で、各施設、違う性格ではあるがマニュアル的なものに持っていく。それとも来年度、市役所とスイトピアセンターで、ユニバーサルデザインを導入してみるということから、他の施設では導入されるか分からないが、二つの施設で利便性を図ることをねらいとして持っていくのか、その辺はどうですか。

【寺嶋政策調整課長】

今やろうとすれば、ある程度共通で使えるチェックリストにしたいですね。また、ワークショップは個別にどういう風に改善したら良いかをやりたい。市役所とスイトピアセンターのマニュアルではなくて、ある程度応用の効くものにしたいですね。

【曾川委員】

ワークショップは、どれほどの人数で期間はどれぐらいをかけてやりますか。

【鈴木座長】

非常にタイトにやっっていこうと思ひまして、2回ないし3回でモデル的にやってみたいです。都市計画に関わる場合には、もっと詰めていかなければいけないが、今回、あくまでもこういう公共施設に備わるべきデザインサインが良いということであれば、どこでどういう風に生かしていけば良いのか。意見交換的なもので、規模としては20人から25人ぐらいで二つの施設について検討したいと思ひます。

【曾川委員】

ワークショップにはあらゆる身体機能の方が入るということですね。

【鈴木座長】

そうです。休みの時であれば、学生たちも参加できるが、検討してみないと分からない。

【曾川委員】

その時まで、マニュアルができていれば良いということですね。マークについては、基本的にJISで決められているものですね。そこをあえて崩す必要はないとは思っているのですが、どうしてもその施設にとって固有のものというのは作っても良いし、目的がはっきりしている場合ですけど、それはどうなのですか。

【寺嶋政策調整課長】

それは意見交換で皆様から意見をいただければ良いと思ひていたのですが、市外から来られた方が分からないのは困る気がします。ある程度基本があつて、他に特有のものがあればそうしても良いと思ひています。

【鈴木座長】

大垣市は南米の方が多いので、外国語の表記には配慮が必要になってきますね。

【曾川委員】

いつも論議を呼ぶ誘導ブロックについて、どのように考えて行きますか。人的サポートが無い想定で張りめぐらせるのか、これは車いすやベビーカーの人から苦情が出る可能性があります。

【寺嶋政策調整課長】

今までの施設のやり方としては、張りめぐらせるということはありません。駐車場から入り口までとか、入口からインフォメーションまでです。

【鈴木座長】

それはまだ検証をやっていないということでしょうね。今どうするかということよりも、実際にバリアフリー施設がどう活用されているか、検証や意見交換を踏まえてどうあるべきかを検討していかなくてはいけないですね。

【曾川委員】

そうですね。当事者の方の意見を聞きたいですね。全盲の方は我々が全く理解できないところがありまして、要らないと言い切る人もいるし、触知図案内板、触って分かるサインですが、私が聞いたところ皆否定されるのです。ほとんどの視覚障がい者が理解できないそうです。点字の識字率が10パーセント台で、それよりさらに分かる人が少ないので、マップをイメージ出来ないそうです。そういうものが無くても介助者やサービスがあれば補えるので、その方が重要だと現場の人が言っていますね。また、“どこに何があるの”と聞く時も、“どこの何が美味しい”かを教えてほしいという意見です。情報というのは、それが大切だということです。そうなると、かなり踏み込んだ情報提供になり、そういう体制で持っていくのか、新しい施設ではある程度可能だと思います。このあたりがサイン整備の方針になってくるのかなと思います。

【鈴木座長】

それでは時間になりましたので、次回に向けての話して、次も曾川委員から話題提供をしていただきたいのですが、今日、検討課題として出された部分が、今後マニュアルを作っていくときの主体になっていくのではないかと思います。そのマニュアルが市民の皆さんが、二つの施設について検討するワークショップを開くことができる題材として、あと2回の懇談会で検討していただくということによろしいでしょうか。では、次回開催日ですが、いつ頃がよろしいでしょうか。

（出席者の間で日程調整を実施）

【鈴木座長】

それでは、次回懇談会は9月24日（金）を第1候補、9月21日（火）を第2候補

とし、時間はいずれも13時30分から15時30分とします。

【寺嶋政策調整課長】

松本先生が未定ということです。また、車戸さんにはご連絡し、開催日が決まりましたら、皆様にご連絡します。

【曾川委員】

それまでに、施設を見せてもらい、たたき台を用意します。それで、前提としてゼロからではないということをご了解いただきたいのですが、そして、あるもので、使えるものは積極的に、参考にさせていただくということをお願いします。

【鈴木座長】

わかりました。それでは、よろしくをお願いします。

【寺嶋政策調整課長】

長時間ありがとうございました。それでは、本日の懇談会をこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

閉会 （12時00分）